

浅井町 ふれあいたより



9月号

重点施策 「安全で安心なまちづくりと子どもたちの健全育成」 発行日 令和2年9月1日
発行者 浅井町地域づくり協議会 一宮市浅井町前野字郷西 85 (浅井町出張所内)
ホームページ 138azai.org(検索「浅井町地域づくり」)

【子どもたちはどう変わったか】 一宮市立浅井中小学校 校長 図師 泰洋

2月末、安倍首相の「臨時休校要請」があり、翌日が最終登校日となりました。そして、その後も休校・延長と続きました。そんな中で、一番気になっていたのが『学校から家庭に戻った子どもたちはどう変わったか』でした。

そんな中、G・W中のニュース報道では「帰省ラッシュはなく」「観光地に賑わいはなく」とありました。その表現に「あまりよくない状況ととらえているのだ」と感じました。もちろん、事業主や経済活動としては困った状況でしたが、皆が我慢しているので、それをたたえる表現であってもよいのではないかと私は思いました。そこで、学校再開後の放送朝礼では、次のように、子どもたちに呼びかけました。

————以下抜粋————

みなさんは家で、新型コロナウイルスにかからないように、手洗いや換気などにしっかり取り組んでくれたことと思います。本当にありがとうございました。先生たちは、みなさんに会えることを楽しみにしながら、コロナ対策や授業の準備をしていました。(中略)

みなさんが「三つの密」を避け、必要のない外出をしないようにしたことが、感染拡大防止につながったことは確かです。このように、我慢の生活が続く中で、本当に大切なことを学びました。他にも、多くのことを学んだと思いますので、ぜひ教えてください。(中略)

さて、今日から全員が登校し、勉強したり、運動したり、先生や友達と楽しく過ごす

日がスタートします。でも、新型コロナウイルスが世の中から消えてしまったわけではありません。担任の先生からウイルスにかからないようにするために、学校で取り組むことを教えてもらったと思います。このようなことは、自分を守るとともに、友達や家族も守ることにつながります。また、いろいろな心配があると思います。一人で抱え込まないように、担任の先生など話しやすい先生にぜひ相談してください。——以上です——



本年度も浅井中小学校のスローガン「であい ふれあい わきあいあい」を合言葉にして、コロナに負けないように教職員と子どもたちで力を合わせてがんばっていきます。今後も、学校・家庭・地域が協力し合い、子どもたちにできることを考えていきます。

今年の敬老会 新型コロナウイルス感染予防のため、各種行事、イベントが中止となっていますが、今年の「浅井町敬老会」も開催を断念しました。対象者の皆様には既に通知が届いていると思いますが、お祝いの品は今年も配布します。式典、アトラクション等の中学校での敬老会は行いませんが、町内会を通じてお祝いの品を皆様に配布させていただきます。

平山町内「見守り隊」の活動

平山町内の「見守り隊」は、町内会の役員と民生児童委員の合計4名で、朝7時15分～8時までの間、見守り活動を行っています。

7月には県道の歩道橋工事の為、登校ルートが変わり、普段の倍近い子供達が平山町内の横断歩道を渡って登校しますが、平山町内には小学生の子供は1人もいません。尾関と東尾関の子供達が、平山町内を通り小学校に登校しているのが現状です。以前の平山町内は、沢山の子供がいて、子共会もあり、町内の盆踊り大会も盛大に開催され、賑やかな町内でした。子どもがいないのに、毎朝、横断歩道付近で登校する子供達を見守り、「おはよう」と元気に声かけをしてくださる平山町内見守り隊の皆様にご感謝の一言です。



おりがみで遊ぼう（浅井児童館）

7月11日(土)浅井児童館で折り紙の工作がありました。今、日本だけでなく海外でも大人気の漫画「鬼滅の刃」のキャラクターをイメージした蝶の指輪を折り紙で作りました。感染予防のため、定員は各回10名として午前10時と午前11時の2回開かれました。参加した小学生はまず初めに自分の好きな色の色紙3枚を選びます。工程が細かな部分もありましたが、先生の丁寧な作り方の指導があり、難しい箇所もみんなクリアしながら進んでいきました。

また、遅れて参加した児童には優しい上級生のお姉さんがすぐ横で一緒に折り紙を折ってくれるので全員、時間内に完成しました。折り紙に集中して作っている子どもたちを見て、作ることもそのものも遊びのひとつだと改めて思いました。一枚の折り紙をそれぞれ組み合わせるのを見ていただけでもワクワクして楽しかったです。出来上がった指輪はどれも個性溢れる素敵なものでした。



浅井町の文化財・史跡紹介（2）「河田城跡」

前回の、河田の渡しにつづき今回は「河田城跡」を紹介します。

河田城は「小牧・長久手の戦い」の際に羽柴秀吉が築いた城です。木曾川の渡しに築かれた要衝で、美濃三人衆の一人である稲葉一鉄が城主をつとめたと言われています。その後、「小牧・長久手の戦い」の和議が成立すると、秀吉は下奈良城の諸道具を河田城に運び込み、多賀秀種らにより渡しを利用して美濃の国の緒城に配送させていました。

河田城は、河田湊を控え、古来より渡船があり濃尾両国の交通の要衝をなしていましたが、廃城時期は不明です。現在、城址は1963年（昭和38年）の木曾川護岸工事のため消滅して、今では河川敷の中にあり、堤防脇に河田城跡と書かれた石碑が残るだけで、残念ながら当時の遺構は何も残っていません。

